

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 （政策）	番号	7	名称	快適な生活を育むまち			
施策	番号	8	名称	人と自然が共生できる地域づくり			
主担当部	魅力創造部		主担当課	世界遺産・文化資産活用課		部長名	山崎 貴浩
関係部	魅力創造部		関係課	産業振興課			

2. 施策の基本方針（第3次総合計画の基本方針をもとに記入する）

この施策の目的	市民が自然と触れ合うことを楽しみ、生物多様性の保全について考え、生活できるまちを目指します。そのためにNPO・ボランティア団体等と連携しながら、里山環境や水辺環境等の保全及び活用を進め、市民に自然・環境、生物多様性に関する情報を提供できるように生物の調査・研究を実施、啓発し教育の機会として、展示や講座、観察教室等のイベントを行ないます。
---------	---

3. 施策の現状分析（第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する）

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、施策を取り巻く環境について
	子どもたちを中心とした地域住民が、安心・安全で身近に自然に触れあうことができる環境づくりが求められています。そのため、里地・里山を整備し、飛鳥川など水辺環境の保全と活用を進め、昆虫や野生生物などの生態系について親しみ、学べる機会を充実する取り組みをNPOやボランティア団体等と協働で進めることが求められている。	地球温暖化やそれに伴う自然災害が地球規模で多発し、自然環境が大きく変化し、子どもたちを取り巻く自然が減少していく中、ライフスタイルも多様化し、子どもたちが自然から離れていく傾向にあります。そのため、多様な生物が生息している里地・里山や水辺等の環境の保全と活用を進め、同時に教育普及活動の促進が必要とされている。
これまでの成果	ボランティア団体の協力により、昆虫館周辺の里地・里山の整備及び、昆虫や植物等の自然環境の保全・活用のための生物調査を継続して行っている。飛鳥川や寺川支流等の河川やため池では、地元の小学校・中学校の生徒や関係課の依頼等により環境調査及び観察教室を行っている。	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	28年度	29年度		30年度	備考欄	
		実績	目標	実績	目標		
指標の推移	施策指標① （成果指標）	観察会や観察教室、イベント等の開催回数（回）	56	35	60	35	
	施策指標② （成果指標）	出前講座の回数（回）	38	26	28	26	
	施策指標③ （成果指標）	昆虫館の利用者（人）	94702	75000	97642	75000	
	施策指標④ （成果指標）						
	施策指標⑤ （成果指標）						
コストの推移 （単位：千円）	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
	歳出 （直接事業費）（a）		38,539	40,525	30,799	30,868	
	歳入 （b）	受益者負担額	998	1,002	988	1,004	
		受益者負担額以外の歳入（補助金等）	6,984	6,544	360	172	
	（a）－（b）＝一般財源		30,557	32,979	29,451	29,692	
	正職員	従事者数 （単位：人）	6.85	6.70	5.00	4.75	
		人件費（c）	39,093	38,237	29,065	27,612	
トータルコスト （a）＋（c）		77,632	78,762	59,864	58,480		

5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性はどうか	2	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	昆虫館周辺の里地・里山においては、ボランティア団体と協働で整備活動や昆虫・植物等の生物調査を継続的に行い、また友の会においては蝶を呼ぶことを目的にしたバタフライガーデン作りなど、観察会や観察教室等において活用している。地元の地域協議会や小学生・中学生を中心とした、水辺の生物調査や出前講座等を通じて地域との連携が図られ、周辺環境や保全活動が進み、自然体験や散策等に活用できるようになり、人と自然が共生できる地域づくりに向けての取り組みが進んでいる。				
	市政全般に対する貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	自然や環境、生物多様性の保全活動から様々な生物が暮らせる環境づくりが進められている中で、昆虫や野生生物等に関する特別展や企画展等の展示事業や生態系の保全のための生物調査、観察会等を実施することで、自然環境や生態系の学習、生物多様性等の情報発信、地域生涯学習を行う拠点としての貢献度は高い。				

6. 施策の課題

この施策の課題	大和三山をはじめ鎮守の森や飛鳥川、藤原宮跡等の多様な生き物が生息している自然豊かな環境ですが、まだ生物調査が十分に行われていないところもあり、地域協議会やボランティア団体、小学校・中学校の科学部の児童・生徒と協働で生物調査を進め、多様性の高い自然や環境、生物多様性を保全するしくみづくりが必要である。
---------	--

7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	2	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	自然豊かな里地・里山を維持するためには整備・管理を続けていかなければ、生態系が良い状態に保たれない、地域協議会やボランティア団体と協働で整備・管理を継続して行っていく。また、地元の小学生・中学生や学校との連携を図り、里地・里山や水辺の生物調査を実施し、自然や環境、生物多様性の保全・管理をしながら、情報の集積・発信の拠点としての機能の充実を図り、人と自然が共生できる地域づくりを進めていく。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	人と自然が共生できる地域づくりを進めていくには、自然豊かな里地・里山の保全・整備等の里山林機能回復整備事業が不可欠であり、そして地域の自然についての生態系及び動植物の分布調査と研究事業や資料・標本類の収集、収蔵保管等の資料等管理事業、昆虫をはじめ生き物の生態飼育業務を行う基礎的な研究業務が必要である。また、その成果を企画展や来館者、学校での出前授業等の環境教育普及事業で還元することで、多角的に生物多様性の重要性について啓発しながら市民の意識を高めていくことができる。自然や環境、生物多様性の情報の集積・発信拠点としての機能を充実させるため、各事務事業を効果的に展開し、見直ししながら継続していく。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度—事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性—事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
(拡大する、見直しながらかつ続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)—施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
(優先度が高い順に A、B、C、D)

この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)				施策評価			戦 略	大 綱
No.	課名、事務事業名 及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及び H29決算額	貢 献 度	方 向 性	優 先 度 (ソフト任意)		
1	産業振興課 里山林機能回復整備 事業 (ソフト(任意))	奈良県より補助を受けて、里山林の整備を希望する所有者と整備活動を行う団体とを森林バンクに登録する事務を行い、双方合意の上で整備協定を手配し、里山林の機能回復を図る。 林業の不振から適切な管理(施策)が行われていない森林を間伐し、森林の公益的機能の維持増進を図る。	2 現状のまま継続 115 (千円)	b	見直しながらかつ続ける	C		
	世界遺産・文化資産活用課(昆虫館) 環境教育普及事業 (ソフト(任意))	自然環境や生物多様性について理解を深めるため、日々の調査の成果を基に野外観察会や講演会等のイベントを実施する。特別展や企画展を開催し、調査研究のデータや標本等を展示し生涯学習に虫いっばいの里山を目指しボランティア団体と協力しながら情報発信を行う。様々な世代が里山づくりに長く関わることができる仕組みをつくる。	2 現状のまま継続 878 (千円)	a	見直しながらかつ続ける	B		
3	世界遺産・文化資産活用課(昆虫館) 資料等管理事業 (内部管理・維持管理)	博物館業務のひとつとして、生き物の生態系の理解や保全のため、生き物調査を定期的実施し、調査・採集した動植物の資料収集、収蔵業務は重要であり、貴重な資料を適正に分類保管し、収蔵資料の情報発信を適切に行う。	2 現状のまま継続 841 (千円)	b	見直しながらかつ続ける			
	世界遺産・文化資産活用課(昆虫館) 生態系及び動植物の 分布調査と研究事業 (内部管理・維持管理)	市内の大和三山やため池、用水路等の動植物が生息しているフィールドを市民やボランティア団体、小学校等と連携しながら自然環境や生態系の保全、緑の基本計画、農地の多面的機能に配慮し生物調査を行う。調査等のデータを蓄積し、展示を行うことで生態系の理解や保全、自然環境や生態系の学習、情報の収集・発信を行う。また、万葉集で謳われている植物を考慮した整備を協働で進める。	2 現状のまま継続 1,118 (千円)	b	見直しながらかつ続ける			
5	世界遺産・文化資産活用課(昆虫館) 生態飼育業務 (内部管理・維持管理)	昆虫の生態系の調査・採集等を行い、採集した昆虫に適した展示環境をつくり、餌も工夫しながら累代飼育を続けていく。また飼育方法についてもマニュアル化し、最も効率的な飼育方法を見つけ、累代飼育を確立させる。	2 現状のまま継続 26,727 (千円)	b	見直しながらかつ続ける			
	世界遺産・文化資産活用課(昆虫館) 生物多様性保全活動 推進事業 (ソフト(任意))	生物多様性飛鳥地域戦略を現実にしていくためには、各主体との協働・連携によって、取組みを推進していく必要がある。そのためには行政だけではなく、地域住民や住民活動団体、NPOなどの民間団体、学校機関、事業者などのそれぞれが役割を十分認識し、生物多様性の取組みに協働で実施していくことが重要である。また必要に応じて、国・県・他市町村や来訪者・消費者など域外の住民・事業者などとも連携しながら、取組みを推進していく。	1 拡大する 1,120 (千円)	a	拡大する	A		○

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月 6日）

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト (任意)) 事業										
P L A N	事務事業名	里山林機能回復整備事業								
	担当部名	魅力創造部		担当課名	産業振興課		課長名	門長 克浩		
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち						
		施策	8	人と自然が共生できる地域づくり						
	総合戦略の位置付け	基本目標								
		基本的方向								
	行革大綱の位置付け	重点項目								
		項目								
		改革名								
	予算事業名	農業振興事業費								
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成		年度			
対象	里山林整備団体・森林組合			事業の内容説明	奈良県より補助を受けて、里山林の整備を希望する所有者と整備活動を行う団体とを森林バンクに登録する事務を行い、双方合意の上で整備協定を手配し、里山林の機能回復を図る。林業の不振から適切な管理（施業）が行われていない森林を間伐し、森林の公益的機能の維持増進を図る。					
事業の目的	住民の自主的な参加等により、里山林の保全・整備及び活用の促進を図る。									
市の関与の必要性を評価してください	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業							
			2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）							
	説明	県費補助事業であり、補助事業者は市町村である必要がある。								
	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
説明	整備活動を行うボランティア団体等へ補助及び委託ができない。									
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	機能回復面積 (ha)			8.99	1.66				
	活動指標①	里山林整備団体			2	2	2	2	2	
	活動指標②									
	コストの推移 (単位：千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出 (直接事業費) (a)			3,217	115	115	143		
		歳入 (b)	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入 (補助金等)			3,468	144	144	172	
		(a) - (b) = 一般財源			-251	-29	-29	-29		
正職員		従事者数 (単位：人)			0.20	0.20	0.20	0.10		
		人件費 (c)			1,141	1,141	1,163	581		
トータルコスト (a) + (c)			4,358	1,256	1,278	724				
単位当たりコスト	計算式等 () / ()									
備考										

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	3	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	整備活動は必要であるが、活動範囲が限られている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	自然との共生を図る上では必要である。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない				
			説明	人件費を除き100%県費補助対象であるため、コスト削減の余地はない。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		県、整備団体との連携をさらに密に行い、今後も継続していく。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B	
4 廃止又は休止する				5 完了する						
		説明	自然環境を保全するため、里山林の適正な整備・育成により、機能回復を図る。							

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 5月30日）

事業の種類を選択してください。⇒		（ ソフト（任意） ）		事業				
P L A N 計 画	事務事業名	環境教育普及事業						
	担当部名	魅力創造部		担当課名	世界遺産・文化資産活用課（昆虫館）	課長名	濱口 和弘	
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち				
		施策	8	人と自然が共生できる地域づくり				
	総合戦略の位置付け	基本目標						
		基本的方向						
	行革大綱の位置付け	重点項目						
		項目						
		改革名						
	予算事業名	昆虫館管理運営費						
事業の開始年度	平成	1	年度	事業の終了予定年度	平成	年度		
対象	市民、ボランティア、小学校		事業の内容説明	自然環境や生物多様性について理解を深めるため、日々の調査の成果を基に野外観察会や講演会等のイベントを実施する。特別展や企画展を開催し、調査研究のデータや標本等を展示し生涯学習に虫いっぴいの里山を目指しボランティア団体と協力しながら情報発信を行う。様々な世代が里山づくりに長く関わることができる仕組みをつくる。				
事業の目的	自然環境が減少していく中で、子どもたちが自然から離れていく傾向にあります。そのため里山や水辺等の環境保全と活用を進め、命や自然の大切さを感じたり学べる拠点としてイベント等を実施し、環境教育の普及や学習機会の充実を図る。							
市の関与の必要性を評価してください	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業				
			2	市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）				
	やめた場合の影響は	説明	1	自然環境が減少していく中で、博物館が中心として取り組む自然環境教育に対しての期待は大きく、命や自然の大切さを感じ、学べる拠点として行って行く上で、社会的役割としての責務がある。市が関与することにより、学校現場との連携がとりやすく学べる拠点としても効果も大きい。				
			2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い	
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等		28年度	29年度		30年度	31年度
				実績	計画	実績	見込み	見込み
	成果指標	講座受講者数（人）	2,310	1,700	2,358	1,700	1,700	
	活動指標①	観察講座開催回数（回）	56	35	60	35	35	
	活動指標②	特別展・企画展入館者数（人）	52,901	64,000	62,135	64,000	64,000	
	コストの推移 （単位：千円）	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
		歳出（直接事業費）（a）		1,180	2,657	878	2,029	
		歳入（b）	受益者負担額	16	20	4	20	
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）	100	400			
		(a) - (b) = 一般財源		1,064	2,237	874	2,009	
正職員		従事者数（単位：人）	1.70	1.50	1.20	1.15		
		人件費（c）	9,702	8,561	6,976	6,685		
トータルコスト（a）+（c）		10,882	11,218	7,854	8,714			
単位当たりコスト	計算式等 （トータルコスト）／（活動指標①）	194.00	320.51	130.90	248.97			
備考	市内・市外等の小学校へのモンシロチョウやメダカの飼育教材による出前授業を実施し、学校現場との交流と教育普及活動を行った。							

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要
		説明	観察会や講演会等を実施することにより、市民との交流やモンシロチョウやメダカの飼育教材による学習支援授業により、学校現場との交流を積極的に行っている。				
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
		説明	昆虫館の里山がボランティア活動により、整備された自然空間を観察会などで利用し、生涯学習や環境教育の場として提供することで地域との交流や自然との共生を学べる生涯学習の充実を図る。				
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない	
		説明	コストの大半は人件費であるため、イベントにはボランティアからの参加を募り協力をいただき、昆虫館職員数を最小限で対応し、コストダウンしながら対応している。				
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。	観察会や講演会等のイベント・企画運営については、通常業務に加えて限られた人員で運営しなければならないため、イベント開催時になると職員のみでの対応に限界がある。職員の人員配置を考えつつ、ボランティアの方に参加を募りながらイベントの効果が最大限発揮できるようにする。橿原市内・市外の小学校の出前授業にはモンシロチョウやメダカの飼育教材等、生物多様性に基づく学校のニーズに合った学習支援授業を行うことで教育普及活動や環境教育に貢献できる。					
	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する 4 廃止又は休止する	2 現状のまま継続 5 完了する	3 縮小する	課内 優先度	C
修正行動	説明	市民参加によるイベントの企画を計画し、学校との連携を続けていく。職員の配置人員を考慮し、ボランティアからの参加を募ることで人件費のコスト軽減を行い、ボランティア活動からの提案も盛り込みながら、体験型事業も企画し参加者の増加を図る。					

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 5月30日）

事業の種類を選択してください。⇒ (内部管理・維持管理) 事業										
P L A N	事務事業名	資料等管理事業								
	担当部名	魅力創造部		担当課名	世界遺産・文化資産活用課（昆虫館）		課長名	濱口 和弘		
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち						
		施策	8	人と自然が共生できる地域づくり						
	総合戦略の位置付け	基本目標								
		基本的方向								
	行革大綱の位置付け	重点項目								
		項目								
		改革名								
	予算事業名	昆虫館管理運営費								
事業の開始年度	平成	1	年度	事業の終了予定年度	平成		年度			
対象	昆虫館			事業の内容説明	博物館業務のひとつとして、生き物の生態系の理解や保全のため、生き物調査を定期的実施し、調査・採集した動植物の資料収集、収蔵業務は重要であり、貴重な資料を適正に分類保管し、収蔵資料の情報発信を適切に行う。					
事業の目的	昆虫の資料・標本の収集と収蔵資料・標本の保管の充実を図り、収蔵資料・標本の情報発信を行う。									
市 の 関 与 の 必 要 性 を 評 価 し て く だ さ い	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業								
		2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）								
	説明									
	やめた場合の影響は	1 非常に大きい		2 やや大きい		3 克服できる範囲内		4 ほとんど無い		
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	-								
	活動指標①	収蔵標本数（点）			101,650	101,850	101,700	102,050	102,250	
	活動指標②									
	コストの推移 (単位：千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出（直接事業費）(a)			338	840	841	388		
		歳入(b)	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）			216		216		
		(a) - (b) = 一般財源			122	840	625	388		
正職員		従事者数（単位：人）			0.60	0.60	0.45	0.45		
		人件費(c)			3,424	3,424	2,616	2,616		
トータルコスト(a) + (c)			3,762	4,264	3,457	3,004				
単位当たりコスト	計算式等 (トータルコスト) / (活動指標①)			0.075	0.09	0.07	0.06			
備考	「Do実施」の「名称及び単位等」の「活動指標①」及び「活動指標②」と、「28年度」実績の「活動指標①」「収蔵標本数（点）」「活動指標②」「コストの推移（単価：千円）」の「歳入（b）」「受益者負担額以外の歳入（補助金等）」、「(a) - (b) = 一般財源」、「単価当たりのコスト」「計算式等（トータルコスト） / （活動指標①）」と、「29年度」「計画」の「活動指標①」「収蔵標本数（点）」「活動指標②」「コストの推移（単価：千円）」の「歳出（直接事業費）(a)」、「トータルコスト(a) + (c)」、「単価当たりのコスト」「計算式等（トータルコスト） / （活動指標①）」を精査の結果、変更しました。									

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	市が関与していることで一般市民より貴重な標本資料の提供があり、寄贈された貴重な標本などは特別展や企画展等の展示に活用し、博物館の責務として公開している。自然や生き物についての啓発や情報提供をしている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	今では手に入りにくい標本の展示や地域特有の標本の展示をすることで、自然環境の変動や生物の多様性に関することについて学ぶことができ、人と自然が共生できるまちづくりについて理解が高まる。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない				
		説明	標本を管理している設備等にかかるコストと人件費のため、低減の余地がない。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		収納スペースが確保され、標本の整理や書籍の収蔵のためのスペースが広がったが、橿原市内の動植物の資料が少ないことから定期的に調査・研究を行い収集を行う。更に、昆虫館情報システムにデータを入力し、有効活用することで、地域の自然環境の変化などについて学ぶことができる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内 優先度	
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する	標本資料は情報の源であり、博物館施設の肝である。リニューアルに伴い収蔵スペースに余裕があるが、標本の整理が遅れている。人員の増員が難しい中、現行の体制で少しずつ整理を進めていく。さらに学校団体への貸出しや出前授業にも有効に活用する。					

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 5月30日）

事業の種類を選択してください。⇒ (内部管理・維持管理) 事業										
P L A N	事務事業名	生態系及び動植物の分布調査と研究事業								
	担当部名	魅力創造部		担当課名	世界遺産・文化資産活用課（昆虫館）		課長名	濱口 和弘		
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち						
		施策	8	人と自然が共生できる地域づくり						
	総合戦略の位置付け	基本目標								
		基本的方向								
	行革大綱の位置付け	重点項目								
		項目								
		改革名								
	予算事業名	昆虫館管理運営費								
事業の開始年度	平成	1	年度	事業の終了予定年度	平成		年度			
対象	昆虫館及び地域住民、ボランティア、小学校			事業の内容説明	市内の大和三山やため池、用水路等の動植物が生息しているフィールドを市民やボランティア団体、小学校等と連携しながら自然環境や生態系の保全、緑の基本計画、農地の多面的機能に配慮し生物調査を行う。調査等のデータを蓄積し、展示を行うことで生態系の理解や保全、自然環境や生態系の学習、情報の収集・発信を行う。また、万葉集で謳われている植物を考慮した整備を協働で進める。					
事業の目的	職員や地域住民、ボランティア団体、小学校が協働し、昆虫をはじめとする動物や植物の生態や分布調査及び採集を行い、調査結果等を特別展や企画展、常設展示に反映し、市民（入館者）に還元する。また、動植物の生態や分布や採集した昆虫類の飼育、植物の栽培をとおして技術の向上に努める。									
市 の 関 与 の 必 要 性 を 評 価 し て く だ さ い	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業							
			2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）							
	やめた場合の影響は	説明	1 非常に大きい		2 やや大きい		3 克服できる範囲内		4 ほとんど無い	
			説明							
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	-								
	活動指標①	研修会の参加回数（回）			10	9	4	9	9	
	活動指標②	調査回数（回）			14	6	12	6	6	
	コストの推移 (単位：千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出（直接事業費）(a)			4,128	1,177	1,118	1,165		
		歳入(b)	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）							
		(a) - (b) = 一般財源			4,128	1,177	1,118	1,165		
正職員		従事者数（単位：人）			1.00	0.80	0.65	0.65		
		人件費(c)			5,707	4,566	3,778	3,778		
トータルコスト(a) + (c)			9,835	5,743	4,896	4,943				
単位当たりコスト	計算式等 (トータルコスト) / (研修会の参加回数)			984	638	1,224	549			
備考	「Do実施」の「28年度」「実績」及び「29年度」「計画」の「コストの推移（単価：千円）」の「歳出（直接事業費）(a)」及び「(a) - (b) = 一般財源」、「トータルコスト(a) + (c)」、「単価当たりのコスト」「計算式等（トータルコスト） / （研修会の参加回数）」を精査の結果、変更しました。									

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	ボランティア団体等と協力を図りながら、昆虫館周辺の雑木林や里山の整備を行い、観察会や生き物調査を実施するとともに、情報発信や啓発を行っている。地元の各種団体や学校等、地域と連携をしながらため池の生き物の調査を実施した。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	ため池や河川の生き物調査を行い、水辺環境に取り組む各種団体や学校等と連携を図り、ため池や河川を中心とした水に親しむことができること環境づくりを協働で進めており貢献度は高い。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
		説明	各種団体や学校等と連携をし、生き物調査や研究を協働で行うことで、効率よく調査が進められる。コスト等については、多くの団体に連携を求めることでコスト低減を図る余地はある。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		大和三山をはじめ、市内に点在する鎮守の森、飛鳥川をはじめとする河川、ため池、用水路を含む農地にも多くの生き物が生息していることから、地域住民、ボランティア団体、小学校と連携をし、生き物調査を実施することにより、広範囲でデータが得られる。また、自然環境や生物多様性について、保全や活用を推進することにより住民の関心が広がる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	
説明		市内の動植物が生息しているフィールド調査など、予算軽減を考慮するために地域住民やボランティア団体、小学校等と連携を図りながら生き物調査を行う。								

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 5月30日）

事業の種類を選択してください。⇒ (内部管理・維持管理) 事業										
P L A N	事務事業名	生態飼育業務								
	担当部名	魅力創造部		担当課名	世界遺産・文化資産活用課（昆虫館）		課長名	濱口 和弘		
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち						
		施策	8	人と自然が共生できる地域づくり						
	総合戦略の位置付け	基本目標								
		基本的方向								
	行革大綱の位置付け	重点項目								
		項目								
		改革名								
	予算事業名	昆虫館管理運営費								
事業の開始年度	平成	1	年度	事業の終了予定年度	平成		年度			
対象	昆虫館			事業の内容説明	昆虫の生態系の調査・採集等を行い、採集した昆虫に適した展示環境をつくり、餌も工夫しながら累代飼育を続けていく。また飼育方法についてもマニュアル化し、最も効率的な飼育方法を見つけ、累代飼育を確立させる。					
事業の目的	累代飼育を中心に昆虫が生息する環境を人工的に再現し、昆虫の生態（昆虫の生活している状況）にあった展示を行ないながら維持管理を行う。									
市 の 関 与 の 必 要 性 を 評 価 し て く だ さ い	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業							
			2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）							
	やめた場合の影響は	説明								
		説明	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	-								
	活動指標①	飼育・展示種類数（種）			98	95	73	95	95	
	活動指標②	年間放蝶数（匹）			8,516	11,000	9,477	11,000	11,000	
	コストの推移 (単位：千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出（直接事業費）(a)			26,315	28,694	26,727	26,071		
		歳入(b)	受益者負担額			982	982	984	984	
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）							
		(a) - (b) = 一般財源			25,333	27,712	25,743	25,087		
正職員		従事者数（単位：人）			1.20	1.75	1.30	1.30		
		人件費(c)			6,848	9,987	7,557	7,557		
トータルコスト(a) + (c)			33,163	38,681	34,284	33,628				
単位当たりコスト	計算式等 (トータルコスト) / (活動指標①)			338	407	470	354			
備考	Do実施の「28年度」「実績」の「コストの推移（単価：千円）」の「歳出（直接事業費）(a)」及び「(a) - (b) = 一般財源」、「トータルコスト(a) + (c)」と、「29年度」「計画」の「コストの推移（単価：千円）」の「歳出（直接事業費）(a)」及び「(a) - (b) = 一般財源」、「正職員の従事者数（単位：人）」、「人件費(c)」、「トータルコスト(a) + (c)」、「単価当たりのコスト」「計算式等（トータルコスト） / （活動指標①）」を精査の結果、変更しました。									

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	放蝶温室で飛んでいる蝶の種類も頭数も年間を通じて安定しており、生態展示の昆虫や生き物についても定期的に展示替えを行ない、色々な種類の展示を行うことができた。また、昆虫の飼育の実演や直接ふれあうことができる体験型展示をすることにより、入館者の満足度が高く、概ね十分な成果が出ている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	いろいろな種類の蝶や昆虫を飼育・展示することで生物多様性や生息環境について学習することができた。また、昆虫館周辺をボランティアが中心となり、整備・管理した里山をフィールドミュージアムとして、人と自然が共生できる地域づくりを図るには貢献度が高い。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
		説明	施策の貢献度を高めるには、生態展示を拡大しより多くの生きた昆虫（種類）の展示が必要である。また、非常勤職員と他館との交流を積極的に行い、飼育方法のマニュアル化を図ることで飼育技術の向上や人件費の低減に繋がる。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		累代飼育により蝶や甲虫など生態展示を行っているが、累代飼育を続けると近親交配による病気の発生が多くなることによる弊害がでてくる。何度も現地へ昆虫を採集することは困難であり、採集困難な昆虫は購入あるいは、無償提供を受けている。また、最近では外国産の昆虫（カブトムシやクワガタムシ）を飼育されている方や他の施設からの提供により累代飼育を続けている。今後も他の施設などからの受入や連絡体制を確立することでより安定した生態展示が期待できる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内 優先度	
説明		新館情報コーナーのミニイベントやゴールデンウィーク、お盆休みなどを活用し、生きた昆虫とふれあえる機会を増やす。また、放蝶温室の蝶や生態展示の昆虫を維持するためには、飼育体制や飼育内容の充実も図る。								

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 5月30日）

事業の種類を選択してください。⇒		（ ソフト（任意） ）		事業				
事務事業名	生物多様性保全活動推進事業							
担当部名	魅力創造部	担当課名	世界遺産・文化遺産活用課（昆虫館）	課長名	濱口 和弘			
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち					
	施策	8	人と自然が共生できる地域づくり					
総合戦略の位置付け	基本目標	3-2-4	安心して便利に暮らせるまちをつくる					
	基本的方向	④	歴史と風土を活かしたまちづくり					
行革大綱の位置付け	重点項目							
	項目							
	改革名							
予算事業名	昆虫館管理運営費							
事業の開始年度	平成	27	年度	事業の終了予定年度	平成	年度		
対象	市民		事業の内容説明	生物多様性飛鳥地域戦略を現実にしていくためには、各主体との協働・連携によって、取組みを推進していく必要がある。そのためには行政だけではなく、地域住民や住民活動団体、NPOなどの民間団体、学校機関、事業者などのそれぞれが役割を十分認識し、生物多様性の取組みに協働で実施していくことが重要である。また必要に応じて、国・県・他市町村や来訪者・消費者など域外の住民・事業者などとも連携しながら、取組みを推進していく。				
事業の目的	飛鳥地域の生態系の特色や社会・文化・経済的な地域特性を考慮した取組みを促すことで、飛鳥地域の生物多様性の質的向上を図るとともに特色ある歴史遺産や文化遺産と、自然のめぐみを利用した地域振興を進めながら地域の社会・経済的活力を高め、社会経済活動と自然が調和した魅力あふれ地域づくりにつなげることをめざします。							
市の関与の必要性を評価してください	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業					
		2	市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）					
	説明	生物多様性飛鳥地域戦略は、生物多様性基本法第13条に基づき、県の生物多様性なら戦略との連携を図るとともに、橿原市、高取町、明日香村の上位計画である各総合戦略および環境分野の関連計画、都市計画などと整合性を図りながら、取組みを推進していく必要があるため。						
やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い			
説明	生物多様性を損なうことで、恵み豊かな環境は破壊され、地球温暖化の二の舞になりかねない。また地域の人口減少も歯止めがかからず、限界集落を助長することになる。							
DO実施	指標の推移	名称及び単位等		28年度	29年度		30年度	31年度
				実績	計画	実績	見込み	見込み
	成果指標	-						
	活動指標①	生物多様性啓発回数		6	5	4	7	9
	活動指標②	-						
	コストの推移 (単位：千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算
		歳出（直接事業費）(a)			3,361	7,042	1,120	1,072
		歳入(b)	受益者負担額					
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）		3,200	6,000		
		(a) - (b) = 一般財源			161	1,042	1,120	1,072
正職員		従事者数（単位：人）		2.15	1.85	1.20	1.10	
		人件費(c)		12,270	10,558	6,976	6,394	
トータルコスト (a) + (c)			15,631	17,600	8,096	7,466		
単位当たりコスト	計算式等 (トータルコスト) / (活動指標①)		2,605	3,520	2,024	1,067		
備考	「Do実施」の「28年度」「実績」の「コストの推移（単価：千円）」の「歳出（直接事業費）(a)」及び「歳入(b)」「受益者負担額以外の歳入（補助金等）」、「(a) - (b) = 一般財源」、「トータルコスト (a) + (c)」、「単価当たりのコスト」「計算式等（トータルコスト） / （活動指標①）」と、「29年度」「計画」の「コストの推移（単価：千円）」の「歳出（直接事業費）(a)」及び「歳入(b)」「受益者負担額以外の歳入（補助金等）」、「(a) - (b) = 一般財源」、「正職員」の従事者数（単位：人）、「人件費(c)」、「トータルコスト (a) + (c)」、「単価当たりのコスト」「計算式等（トータルコスト） / （活動指標①）」を精査の結果、変更した。							

CHECK 評価	有効性 評価	現時点での 成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	平成29年3月「生物多様性飛鳥地域戦略」の策定にともない、生物多様性飛鳥地域保全活動検討委員会の開催や橿原市、高取町、明日香村の担当課の職員による実務担当者部会の開催など生物多様性についての推進事業を順次進めている。また、ため池等の外来種駆除事業も実施した。							
	現時点での 有効性を評価してください	上位施策 への貢献 度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	生物多様性飛鳥地域戦略に基づいた、取組みおよび重点プロジェクトに向けた横断的な計画であることから、市及び周辺地域の農業・商業、教育、環境、文化財、自然、景観、観光、交通の施策へも貢献が出来る。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない				
		説明	事業によっては手法を見直すことにより、事業の進捗度を推し進めることができ、さらに事業が向上する余地はある							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		生物多様性飛鳥地域戦略を推進することにより、生物多様性を基礎とする地域固有の美しい風景やそれに基づく豊かな文化を再発見することで、地域への誇りや愛着の感情を引き起こし、人を引きつけ、地域の活力の発展につながる。例えば、自然環境を歴史・文化とともに守り活かすエコツーリズム、地場産業や地元企業のブランド力の向上など、関連を見いだし地域活性化につなげることが期待できる。							
	修正 行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内 優先度		D	
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する	地域における多様な主体が有機的に連携して行う生物多様性の保全のための活動の実行計画である「地域連携保全活動計画」を地域戦略とあわせて作成し、保全活動の促進に寄与する活動を推進する。					